

この一年

市政の分野の広さに圧倒されながら

駆けてきました

新たな世界へ飛び込んだ一年目が終わろうとしています。この一年を一言で言い表すとしますと「市政の分野の広さに圧倒されながら駆けてきた」という感じでありました。

自分が経験してきたこと、見てきたことの分野は、ほんの一部であることを理解いたしました。今まで深く考えたことのない様な議案が次から次へと出てまいりました。市民の皆様からの要望も多岐にわたっておりました。

そうした実状の中で踏ん張ることができましたのは、多くの皆様のバックアップ・ご支援を背中に感じていたからであります。また、先輩の議員の皆様や当局の皆様にも大変親切にお教えいただきました。“最初の一年は勉強期間”と自分で決めてやってきましたが、まだまだ二年目も教えるを乞うことは続きそうであります。

自分らしさを意識した一般質問

このような状況の中であっても、“自分らしさを出すこと”もしないと存在を認めてもらえないであろうと考えました。手を挙げ意見を言う機会としては、各種の委員会そして一般質問が主となります。こう考えるのは、どの議員さんも特に議員年数の若い議員さんに共通のようでありまして、皆さんみんな勉強家です。そして各々得意分野を持っていることも理解いたしました。そして、一般質問については、事前の情報収集・準備をしておかないと当局に訴え出来ませんので、大変勉強になる、身につく機会になると思いました。そうしたことで、一年目最後の 2 月定例議会にては、自分が民間育ちであることを前面に出して、“絹村らしさ”も意識して一般質問に立ちました。

(初めての 6 月の時の一般質問は、公民館長時代の経験・抱いていた課題から「社会教育」と「地域づくり」で行いました)

今回のテーマは、「駅前のリバーラ駐車場」に関する質問と「市営墓地」についてといたしました。このうちリバーラ駐車場については、毎年同じように大きな赤字が出ておりますので、一年生議員にしか質問し意見を言うことができないであろうと考えたものであります。

結果は、市長からいい答弁を引き出すことが出来ず残念な苦い体験となりました。質問手順の未熟さも先輩議員の方々から指摘されたものでした。しかし、歳費を頂いている者としての責任感・細心の検討の不足から生じたであろう問題課題を、公開の場で論議したことは、行政に警鐘を鳴らすことの意義はあったかもしれないと、無力感冷めやらぬ自分を慰めたものであります。

二年目の平成 26 年度は、分野を拡げ、深く耕すことに努めたいと思っています。皆様のご意見・ご要望をお寄せください。“磐田市にとってそれは有効か”の視点で判断し対応してまいりたいと思います。今後ともよろしくご指導の程お願い申し上げます。



雨中のサポーター大声援実らず

J2 開幕 ジュビロ初戦落す

3 月 2 日(日)、J1 復帰を賭ける大事なコンサドーレ札幌との雨中の開幕戦は、残念ながら 0 : 1 で敗れ黒星スタートとなった。押し気味に進めるも再三の決定機に点に結びつかず、悲鳴とため息に包まれて……。

しかし、次は勝つ!! なんととしても 1 年で J1 復帰を果たさなければならぬ。

「苦境」の時こそみんなで応援!!

“ジュビロ”は磐田の宝です。